

ほほえみ

ボランティア通信
平成31年3月1日

発行 秦野市ボランティア連絡会
編集 秦野市ボランティア連絡会 広報委員会
秦野市緑町16-3 秦野市保健福祉センター内
TEL 0463 (84) 7711

広げようボランティアの輪・和・話

新しい時代に拓ぐ
「原点を大切に」



会長 吉田 芳子

平成三十年度の事業は、会員皆様のご理解とご協力により計画どおり実施できました。

日頃より市社会福祉協議会はじめ関係機関のご指導とご協力をいただき感謝申し上げます。

秦野市はボランティアが非常に多く約七割の七十六団体がボランティア連絡会（通称ボラ連）に加入しています。それぞれ、団体の特徴を活かし地域に根差した支援活動や福祉施設の訪問など積極的に参加されています。

ボランティアの基本は無償の奉仕であり、近所で助け合う「おせっかい」が始まりとも言われています。それによって人の輪が広がり、気負わず楽しい時間をみんなが共有し、活動に繋がっていったのではないのでしょうか。

今年、新しい元号に変わりますが、今迄と変わらず人と人の絆を大切に相手の気持ちに寄り添い自然体でボランティアを続けていただきたいと思います。

11月3日 (土) 市民の日



今年も啓発運動のためボラ連ブースを設け、また、二団体のご協力を得て、手話、救急法の実演をしました。また、今回初めて子どもたちに折紙を貼ったり絵を描いたりして共同製作ができる地図を用意しました。



一円玉募金コーナーでは、親御さんがそつと子どもに一円玉を渡す微笑ましい光景もありました。今年も多くの親子が立ち寄ってくれ楽しく交流ができました。この日の体験がボランティアの心に繋がる事を願っています。

10月20日 (土) ともしび広場



秦野市福祉大会に合わせ福祉施設の人たちと文化会館前の広場で模擬店を開き、抹茶・紅茶・コーヒーを販売しました。ボラ連活動パネルの掲示や一円玉募金も行いました。



10月2日 (火) 赤い羽根共同募金

秦野駅頭にて午後四時から一時間募金を呼びかけました。募金してくださる方は男女問わず年配の方が多いのですが毎年男子高校生の姿も目立ちます。カード社会になり小銭を持たない人が増えているのではないかと感じます。募金額 七千四円でした。

研修会

今年度は、平成三十年十月十六日(火)に横浜地方裁判所、横浜地方検察庁、横浜市開港記念会館及びキリンビール横浜工場を訪ねました。参加したのは十八団体四十七名でした。

三権分立の一つで司法権を担う裁判所は、テレビではよく見ますが、私どもにとつて縁の少ない場所ではないでしょうか。横浜地方裁判所では、公判中の裁判を傍聴することが出来ました。麻薬常習犯と振り込め詐欺の受け子の裁判でした。麻薬の裁判では母親が証言台に立ち、我が子をかばい証言する姿に傍聴席から嗚咽する声が響いていました。



次に訪ねたのは横浜地方検察庁です。ここでは模擬取調室・証拠品保管庫・資料倉庫を見学しました。

次に訪ねたのは横浜市開港記念会館です。三班に分かれてボランティアの方に案内と説明をして頂きました。赤煉瓦が積み重なった時計台になっている外観が圧巻で、建物の中は随所に開港の頃の横浜の風景を描いたステンドグラスが



嵌められており、重厚感のある講堂ともども明治の臭いがするようです。

次にキリンビール横浜工場を訪ね、生ビールを作る一連の製造工程を見学しました。

いよいよ皆さんお待ちかねの一番搾り生ビールの試飲です。みんなで研修旅行の終了を祝って乾杯をしました。一番搾りのミクロの泡70%に包まれたビールの味はさすが格別なものがありました。

古家 記

【参加者の声】

- 家庭環境がいかに大切か、子供の身守りが大切ですね。
- ステンドグラスのすばらしさ、ここでもボランティアさんの活躍がうれしかった。

主催：秦野市社会福祉協議会
共催：秦野市ボランティア連絡会

1/25 金 暮らしの福祉講座



「たくさん笑って、介護予防」
講師 日本介護エンターテイメント協会 石田竜生氏

「介護が元気に笑ってできるヒント」と「介護予防体操」を教えてくださいました。

【認知症にならない為に瞬発力を鍛えるには】

- 日々、頭の先から足の先までマッサージで刺激
- 頭を使ったゲーム感覚の健康体操

【やる気を引き出す魔法の言葉】

- 「昔の話をきかせて」 *学校・友達・仕事
- 「すごいね〜」 *自慢話・輝いていた瞬間

【「快刺激」効果】

- 脳の動きが活発になり脳血流量は十倍〜百倍に変化する。
- 人は心が動くと体が自然に動く。
- 笑顔には力あり、連鎖され皆が笑顔になる。
- 参加者の感想より〜
- 体を動かし明るく、元気になりました。
- 何事にも情熱が必要ですね。今後のボランティア活動も笑って携わっていききたい。

- 夫婦で参加させて頂き、共通の話題が出来て、これからも2人でたくさん笑って毎日過ごしたいと思います。
- 笑って、笑って元気ができました。
- まわりの人達にも伝えたいです。
- 人生100年時代、身体の続く限り、できる事はやっていきたいと思った。



ボランティア コーディネーター

ボランティアの現場から

—このコーナーは、ボラ連加入団体の中から毎号2団体を紹介しています—

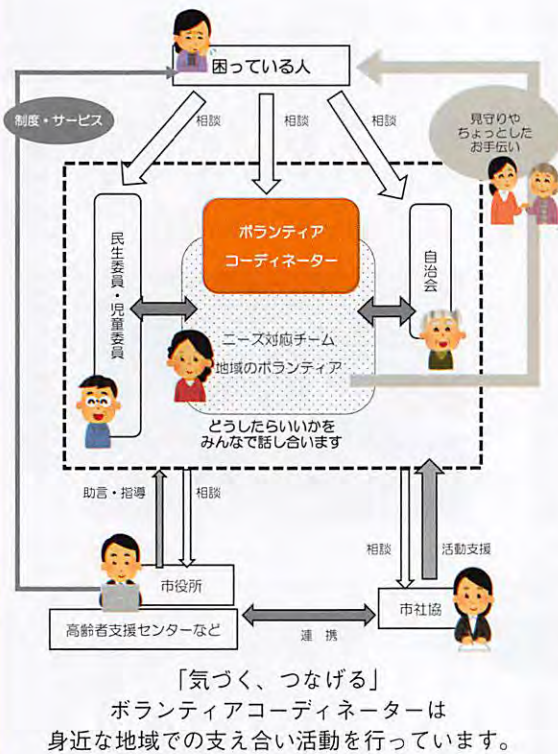
ボランティアコーディネーターとは、一言で言うとならば身近な地域で行われるボランティア活動をお世話・仲介する「お仲人さん」です。

昭和五十九年、誰もが持っている助け合いの心を身近な地域の中でボランティア活動に繋げていくための橋渡し役として誕生しました。

現在、連絡会には市内四地区のボランティアコーディネーターが集い、学習会や情報交換を行っています。

主な活動は、ご近所で行われている高齢者などの見守りやサロン運営、助け合い活動です。

「福祉サービス」を使うほどでもないけれど、誰かに助けをもらいたい、そんな時の助けをしたいと思います。



傾聴こだまの会

私たちは、市内の四つの老人福祉施設を訪問し、利用されている方のお話を伺っています。会員数は、現在十四名（うち男性三名）です。

活動の基本は、第一水曜日に定例会を行いながら、施設に週一回、午前中に一時間ほど訪問させて頂いています。各施設のご厚意で提供された部屋でその都度、各人の体験や気になった事を出し合い情報、認識の共有化と、対処法が必要なときは納得できるところまで話し合う「ふりかえり」を必ず行います。写真はその様子です。

「傾聴」の活動とは、どうあるべきか又、どう展開されるのか悩みながら定例会では、会員相互のディスカッション、勉強会をくり返しています。

私たちは会員は、それぞれに他のボランティア活動や趣味のグループに、あるいは定期的な学習会の参加等、幅広い活動をもっています。個人の活動を認め合い、それぞれの都合に合わせた無理のない出席を了解し合っています。会員同志の協調、和を基本として、守秘義務の認識の上で、ざっくばらんな運営を行っています。

八年の活動を経て、お顔見知りになった方々が私たちの訪問を心待ちにしてください、ボランティアとして社会参加の喜びを私たちもいただきたいです。



鍋田 進

ボランティア活動に潜むハラスメント

7/23
全体会 (本町公民館)

第一部の情報交換会には三十一団体の代表が参加した。「他の団体の熱心な活動が聞け参考になった」「活動の苦労や問題点をもっと聴けると



良い」等の声が寄せられた。第二部・学習会では横浜創英大学・小野智明教授に講演して頂きました。

要点はボランティア活動の受け手が不快と感じるか、被害を受ければ、ボランティアにそのつもりが無くても、ハラスメントになり得ること。上下関係のみで相互の信頼が希薄な時にハラスメントは起き易いこと。ボランティアは受ける人から見れば、上位の人と見なされ易く、「これ位は許される」と安易に勝手な指示をしていないか。周囲に他の人が居る時に十分に気を配っているか等が大切だそうです。

講話後の反響には
● ハラスメントを起こさぬ為には、十分なコミュニケーションと相手の気持ちに配慮する思いやりが大切だと感

じた。
● ハラスメントを生まぬ配慮について、もっと具体的な話が聞きたかった。
等の声が寄せられました。

また全員が参加したグループワークは、課題の理解がさまざまで、いち早く目的と課題を理解して全員が上手にコミュニケーションを築けたグループが、テーマにふさわしく勝利？したようです。
柳川 記

秦野市ボランティア連絡会一円玉募金の歩み

ボラ連は昭和57年1月、団体及び個人のボランティア活動の情報交換と活動支援体制を充実させ明るく心豊かな地域社会を築いていくために結成されました。活動の一つに一円玉募金活動を掲げ、会員一人ひとりが家の隅っこやお財布にある一円玉をコツコツと貯め持ち寄った募金を積立て、福祉施設などへ補助金で支出。その後福祉バス購入時の一部負担金とバス維持費として平成17年まで支出。その後も募金は継続しています。近年は自然災害の義援金として平成23年東日本大震災、平成28年熊本地震災害、平成30年西日本豪雨災害に寄付(650,417円)させていただきました。まさに「継続は力なり」です。今後ともご協力お願いいたします。

一円玉募金

ご協力ありがとうございました。
寄付してくださった方々

平成30年3月～平成31年2月末受付

合計68,469円(内、利息2円)

【協力団体等】(敬称略・順不同)

秦野市民生委員児童委員協議会(本町・南・東・北・大根・西・渋沢・末広・南が丘・広畑・鶴巻・堀川)、大根ささえあい、秦野手話サークル秦の会、本町地区ボランティアコーディネーター、秦野公衛会、南地区二丁目対応チーム、はだの悠遊会、秦野市ボランティア連絡会、秦野地区更生保護女性会、秦野市地域婦人団体連絡協議会、秦野市録音赤十字奉仕団ひまわり、秦野市食生活改善推進団体、(有)佐藤商店



西日本豪雨災害義援金として赤い羽根共同募金へ

* 編集後記 *

年一回の「ほほえみ」発行には、各々、団体活動に忙しい中、編集会議に足をはこび、熱心に話し合い製作されました。会議終了後の何気ない会話で心と楽しい時間を共有することができました。